

主 文
本件上告を棄却する。
理 由

辯護人橋本清太郎の上告論旨は、末尾添付の上告趣意書に記載のとおりであつて、これに對して當裁判所は次のように判斷をする。

第一點について

〈要旨〉選舉運動の文書圖畫等の特例に關する法律は、用紙其の他資材の不足極めて窮迫してゐる經濟事情の下に行わ</要旨>れる選舉を最も適正且つ公平ならしめることを目的として昭和二十二年中に施行された參議院議員等の選舉において選舉運動のために使用する文書圖畫等の頒布又は掲示について適用する法律であつて、參議院議員選舉運動取締規則等の中で右法律に適合しない部分は同年中その效力を停止するという特例的なものとして制定せられたものであること、同法第一條及び附則第二項によつて明かである。選舉運動のための文書圖畫を戸別に頒布する場合について一定の制限を規定した右取締規則第二條の法文を根據として頒布文書圖畫の種類について制限を加えた右特例法第二條の解釋をしようとするのは、いわれない試みであつて、同法第二條にいわれる頒布を二戸以上の家への配布と制限的に解すべき根據は何もない。しかして原判決の犯罪事實として記載するところは、論旨摘示のごとくであつて、これによれば、被告人は情を知らないA等をして數十名に對して名刺九十餘枚を配布させたことをもつて頒布と解したのであつて、所論のように名刺百餘枚をAに交付したこと自體をもつて頒布と解したのでないこと極めて明瞭である。

しからば、この犯罪事實は右法律第二條に違反し同法第十四條に該當すること疑いないから、原判決には、所論のように事實を誤認し法の解釋を誤つた違法があるとはいはず、所論は全く理由がない。

第二點について

原判決舉示の證據によれば、原判決事實を認めるに足り、その間原判決が採證上の法則を誤つた點を發見し得ない。所論は要するに原審の事實認定を非難するものであつて、適法な上告理由とするに由ない。

右の次第であるから刑事訴訟法第四百四十六條によつて主文のとおり判決をする。

(裁判長判事 荻野益三郎 判事 大野美稻 判事 態野啓五郎)